

今戸焼 干支人形

豊干寅 ぶ かん とら



昔むかしの唐の時代、浙江(せつこう)の天台山国清寺に居た禅僧の豊干(ぶかん)の院には一頭の虎が出入りしていました。ある日、豊干が浄水を吹きかけて天台の官吏の頭痛を治した際に「国清寺にいる寒山(かんざん)は文殊菩薩で拾得(じつとく)は普賢菩薩である」と官吏に伝えた逸話があることから、豊干が虎に乗る姿や、経巻を携えた寒山と簪を持った拾得を知徳と行徳に見立てた禅画、江戸時代には浮世絵も描かれました。そして、豊干と寒山と拾得が虎に身を寄せ合い眠る「四睡(しすい)」の画は禅の真理を示しているといわれていて、飄逸で愉快的寒山拾得の逸話と共に今も親しまれています。

このたび、息災と平和を願い、豊干が虎に寄り添い眠る新作の干支人形「豊干寅」を作りました。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

今戸焼 白井

六代 白井 裕一郎